



2024年 4月 聖句

イエスは言われた。「たしはよみがえりです。いのちです。私を信じる者は、死んでも生きるのです。」（ヨハネ11：25）

ラザロの墓の前でイエス様は「ラザロよ。出てきなさい。」と命じ、墓の中からラザロをよみがえらせました。戦死であれ病死であれ死はなんと恐ろしく悲しいことでしょうか。死はすべてを呑み尽くす人類の敵です。なぜ人間は死ぬのでしょうか。聖書は罪を犯したため死が全人類に及んだと教えています。3月30日はキリストの復活を祝うイースター(復活祭)です。二千年前、主イエス様は全人類の罪の身代わりとなって十字架で死にましたが三日目に甦られました。甦られたイエス様は恐るべき死を滅ぼし、罪と死の呪いから人類を解放してくださいました。死に勝利し復活されたイエス様を信じる人はラザロのように死んでも生きる永遠のいのち、復活のいのちを戴くのです。「わたしを信じる者は死んでも生きるのです」復活された救い主イエス様のことばです。



今月の説教

「わが神よ。どうして」 マルコ 15：21-41

受難週を迎えてイエスキリストの十字架刑と十字架を取り巻く人々の姿から神の愛とキリストへの信仰の応答を学びましょう。15:1-21 ゴルゴタへの道。早朝のローマ総督ピラトによる裁判 ユダヤ人の指導者たちと扇動された群衆の不当な訴え。罪なきイエスの十字架死刑判決、バラバの釈放、イエスの鞭打ち、茨の冠、葦の棒のたたき、嘲弄の行為、唾、衣をはぎ取り、十字架を背負わせた。処刑場ゴルゴタの丘まで、疲労と激痛の中で十字架を負い悲しみの道ヴィア・ドロローサを進んだイエス。十字架を担いきれずクレネ人シモンが変わって十字架を背負うほどであった。ゴルゴタの丘での架刑。「わが神よ。どうして」イザヤの預言した苦難の僕の肉体的霊的苦悩の叫びである（イザ3:4,5,7,8）。22-32 十字架につけられるイエスを取り巻く人々の罪深い不信仰の態度を見る。十字架の処刑はゴルゴタの丘で行われた。裸にされ釘打上げられて午前9から午後3時の死に至るまでの6時間、その激痛の中で（没薬を混ぜた葡萄酒は飲まなかった）二人の強盗と共にイエスは犯罪人として架刑された。イエスの罪状書きは「ユダヤ人の王」15:2,12。「救い主」「イスラエルの王」「三日で神殿を建てる者」「十字架から降りよ」反抗的不信の罪を示すあざけりの言葉、奇跡をもって自分を救えと嘲笑する祭司長、律法学者群衆の罵りと嘲りの言である。29-32。彼らの霊的墮落と不信仰、傲慢、無知の言葉である（ロマ1:18,24,28-32;3:18）。それはイエスの言行の事実を証明している。ナザレのイエスはイスラエルのメシヤ王である。33-38 神から捨てられたイエスキリストの姿。午後3時、全地は暗黒に覆われた。神の超自然的な御業であり、神の呪いの印であった。〈エロイ、エロイ、ラマサバクタニ。〉アラム語〈わが神よ。どうして、私をお見捨てになったのか〉詩22:1 大声で叫ぶ、〈罪なき神の御子〉が父神から呪われ捨てられ全くの孤独絶望見捨てられた魂の苦悩の叫びである。

それは罪ある人間の身代わりとなって滅びの刑罰を受けた聖なる神の小羊の叫びである（イザヤ53:12;1ペテ2:23;2コリ5:21;ガラ3:13;ヨハ10:11,17,28）。イエスの叫びを聞いた幾人かの反応は〈エリヤを呼んでいる〉であり旧約の力ある預言者エリヤが助けるのか（エリとエリヤ35）。37<大声を上げて息を引き取られた>大声は勝利の大声である（34）。ヨハ19:30は〈すべてを完了した>と記している。主の贖罪の使命の達成、この世に受肉された主の目的の成就を意味した。贖いの完了、信仰義認である。ロマ3:23,24。38<神殿の幕が真つ二つに裂けた>聖なる神の隔ての幕は切割かれ開かれた。今やキリストを通して神に直接会うことができる道が開かれたのであるへブ10:19-22。39-4愛されたイエスキリストを見る。39十字架は強盗だけでなく、異邦人ローマの百人隊長を信仰に導いた<この方はまことに神の子であった>初心の信仰告白である。血だらけの無残なキリストを見ての告白イエスの聖なる峻厳性に圧倒された。40,41<遠くから見ていた女たち>がいた。弟子たちの母、イエスにいつも仕えていた女たち。最後の受難の時にそばにいた女の人たちの恐れを知らぬ愛と信仰見る。弟子たちは四散し葬りにもいかなかったが女たちはいた。43-47。34節 〈わが神我が神 どうして私をお見捨てになったのですか〉。へブ4:15-16。私たちの罪のため、身代わりとなって神に捨てられた贖い主イエス様の絶大な愛に心から感謝し信じてまいりましょう。

渋谷 敬一

協力牧師・教師

ハレルヤ・声の広場



福音宣教牧会余話 渋谷 敬一

福島ベテルハウス福音館

5月20日、62年間共に福音宣教の奉仕に与った妻セイ子姉の葬儀を終え、福島ベテルハウスを拠点とした高齢者伝道32年間、主の恵みの日々を数え上げて感謝しました。32年前の7月、仙台の本城牧師を招き福島ベテルハウスの開所式をいたしました。以来今日まで32年間ベテルハウスはささやかですが“神の家”として、福音宣教のために用いられてきました。仙台の神学校の出先として信徒クラスを開き、軽費老人ホームエデンの園の礼拝所としてまた今は解散してありませんが福島第一バプテスト教会の礼拝所として、また近隣の高齢者の方々とのみ言葉と賛美の家庭集会“ベテルの集い”が持たれました。そして今は私の独立伝道の拠点としてまた住居として用いられています。

・福島ベテルハウスは福島市を流れる阿武隈川の東部の山間部にあります。曲がりくねった山道を登る途中に位置しています。鶯を始め様々な小鳥たちのにぎやかな声が聞かれます。雉、山鳥、イノシシ、タヌキ、キツネ、ハクビシンなどのいる里山です。ベテル農園？を荒らす仲間たちです。私は野菜づくりをしながら神の賜った自然の恵みを日々楽しんでます。生かされていることの恵みですね。

・ベテルハウスのあるこの土地は、今は亡き主にある愛兄和合勝次兄弟から受け継いだものです。和合兄は生まれながら足の不自由な障害を持ち車いすの生活でした。私は和合兄と知り合ったのは70年ほど前でした。彼は福音放送を通して信仰に導かれ、バプテスト宣教団の通信教育受講者でしたので、その情報を得て山里の和合兄宅を訪ねたのが

・出会いの初めでした。以来和合兄が10年前86歳で天に召されるまで続けました。彼が障害者授産施設の“けやきの村”を退所してから召天までの約18年間は我がベテルハウスで過ごされました。そのようなわけで、ベテルハウスの働きは和合兄弟の祈りと協力の賜物でもありました。主に感謝します。仙台の奉仕を終えて、福島ベテルハウスを拠点にしての働きは佐藤キミ姉、和合兄、セイ子姉、そして仙台の教会、先生方、32年間の長きに渡って祈りとご支援をくださった諸兄姉の愛のゆえに（お一人お一人を思いながら）心から主なる神イエス様に感謝しています。私もこの秋89歳を迎えます。セイ子さんはおりませんが、主イエス様が“もういいよ”と言われるまでベテルハウス福音館の福音宣教を続けさせていだきたいと願っています。

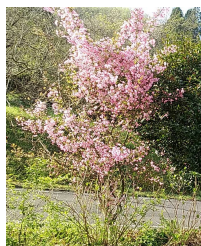
俳句・短歌・川柳・その他

☆ ありがとう

写真の笑顔
妻の声 (ほでなす)

☆ 妻召天

備えはいかにと
自問する (ほでなす)



* <祈り・執成し>

教会の働きと兄姉のために：白石BC（無牧・協力牧師教師澁谷）聖十字架キリスト教会、郡山BC（無牧）、東京聖書教会（中山師）高橋清師（創造科学）中野師（教会、神学校）外山師（健康）、満好師（健康）、須賀川BC（柴田師）、田場師夫人（沖縄伝道・健康）岡崎師（台湾）長沢師（韓国）創世グループの働き（野田豪一、信光）、田中館姉（健康）、斉藤姉（健康）、福地姉（職場の働きと健康）伊藤姉（子供、父入院）有坂兄姉（働き）、山崎師（健康職務）下山田姉（健康）福士堅兄（TCU学び）エデンの園（軽費老）、虹の郷（特老）、福士姉（弟健康）石山姉（健康）宮本兄（働き）、野田姉（健康）三澤師（健康回復）、仙台BS、あだたらキャンプ、交わりの諸教会と信徒の守りと導き。

<来信・感謝>

斎藤姉、福士夫妻、東京聖書、郡山BC、白石BC、福地姉、田中館姉、岡崎姉、長沢師（韓国）、岡崎正兄、高橋師ご夫妻、山崎姉、野の花誌、TCU、鴨原姉、澁谷兄、大島師、中沢兄姉、宮本兄、有坂兄姉、エデンの園、創世代表、野田信光兄、東京聖書（竹口師）、吾妻兄姉、下山田姉、福士亮夫妻、岡本姉、山崎師、大黒師、杉山兄、井上姉、村上兄、近藤姉、矢内姉、小山姉、トボス（白根姉）

<3月奉仕>

白石バプテスト教会 主日礼拝説教 3/3,10,17,24,31 イースター礼拝・記念会3/31
学び会：奉仕分担、広報活動（週報、集会案内、チラシ他）
ベテル便り「恵みの広場」誌3月号、原稿、印刷発送（4/5-10）
エデンの園聖句原稿3/26 広報誌原稿4/5 創世事業団理事会3/7
創世木曜会（幹部会）3/4 三育理事会3/18、創世グループ辞令交付・入社式3/30 訪問 1ヶ所（セイ子姉葬儀式3/20）

<4月奉仕予定>

白石バプテスト教会 主日礼拝説教 4/7/14/21/28 役員会
学び会：広報活動、週報内容検討、地域教会との交わりの強化、
ベテル便り「恵みの広場」誌 4月号、原稿、印刷発送（5/5-10）
エデンの園聖句原稿4/26 広報誌原稿4/29 訪問（白石・仙台方面）他。

<白石BC教会行事>

3月31日 イースター礼拝・記念会
5月12日 母の日
6月16日 父の日

<3月雑感>

妻セイ子姉は3月17日（日）午後1時29分、介護老健施設聖オリーブの郷で天に召されました。白石の礼拝後直ちに大島師の運転で福島に帰りました。家に着くと間もなく施設から連絡ありセイ子さんに面会に来てくださいと電話があったので施設に向かいました。5分ほど前に召された手を握り神に祈りました。まだ暖かい手でした。

葬儀は3月20日に家族葬とし、白石バプテスト教会の大島師の司式で行いました。今日まで長い年月、妻セイ子さんと私のために祈り支えて下さった皆様お一人お一人に心から感謝いたします。3月はイースター礼拝、召天者記念会、そして様々なご奉仕がありました。主に祈り心を整えて4月からの御奉仕に当たりたいと思います。祈ってください。 渋谷敬一

* ハレルヤ声の広場：掲載原稿募集中（300字程度）：信仰の気づき、証し、詩歌、俳句等（兄姉の声を賑やかに出し合い祈りと感謝の紙面を作りましょう） 渋谷敬一